

序章

上野公園ランドデザインのねらい

1. 背景

○ 上野公園*の文化と歴史

上野公園は、上野の山と呼ばれる台地と不忍池からなり、寛永寺の創建以降約 400 年の長い歴史と伝統の上に築かれている。

上野公園には、桜の名所や不忍池等に代表される個性豊かなみどりや水辺景観が形成され、都民の貴重な憩いの場となっている。寛永寺清水堂をはじめ江戸時代の建造物や史跡等の歴史的資源に恵まれるとともに、日本を代表する世界有数の博物館や美術館、動物園など多くの文化施設が集積し、日本の文化・芸術の中心として、また、東京を代表する観光地として、つねに国内外からの来訪者で賑わいをみせている。 註 本書では、都市計画「上野公園」の区域のうち谷中霊園地区を除くエリアを「上野公園」という。

○ 都市観光の隆盛

近年、世界各国において観光が重要な産業として位置づけられ、経済の活性化のみならず、国や地域を越えた人々の交流による国際的な相互理解を促進し、世界の平和と発展にきわめて多くの役割を果たすようになってきている。

それに伴い、様々な都市において、文化・芸術をテーマとした都市開発や大規模イベント開催による国際文化交流、観光客誘致等が盛んになっている。東京でも、六本木等において都市の再開発等にあわせて新たに誕生した複数の美術館が連携し、文化・芸術をテーマに、飲食・ショッピングを含めたまちを活性化させる取組が行われている。

○ 世界のモデルとなる成熟した都市東京

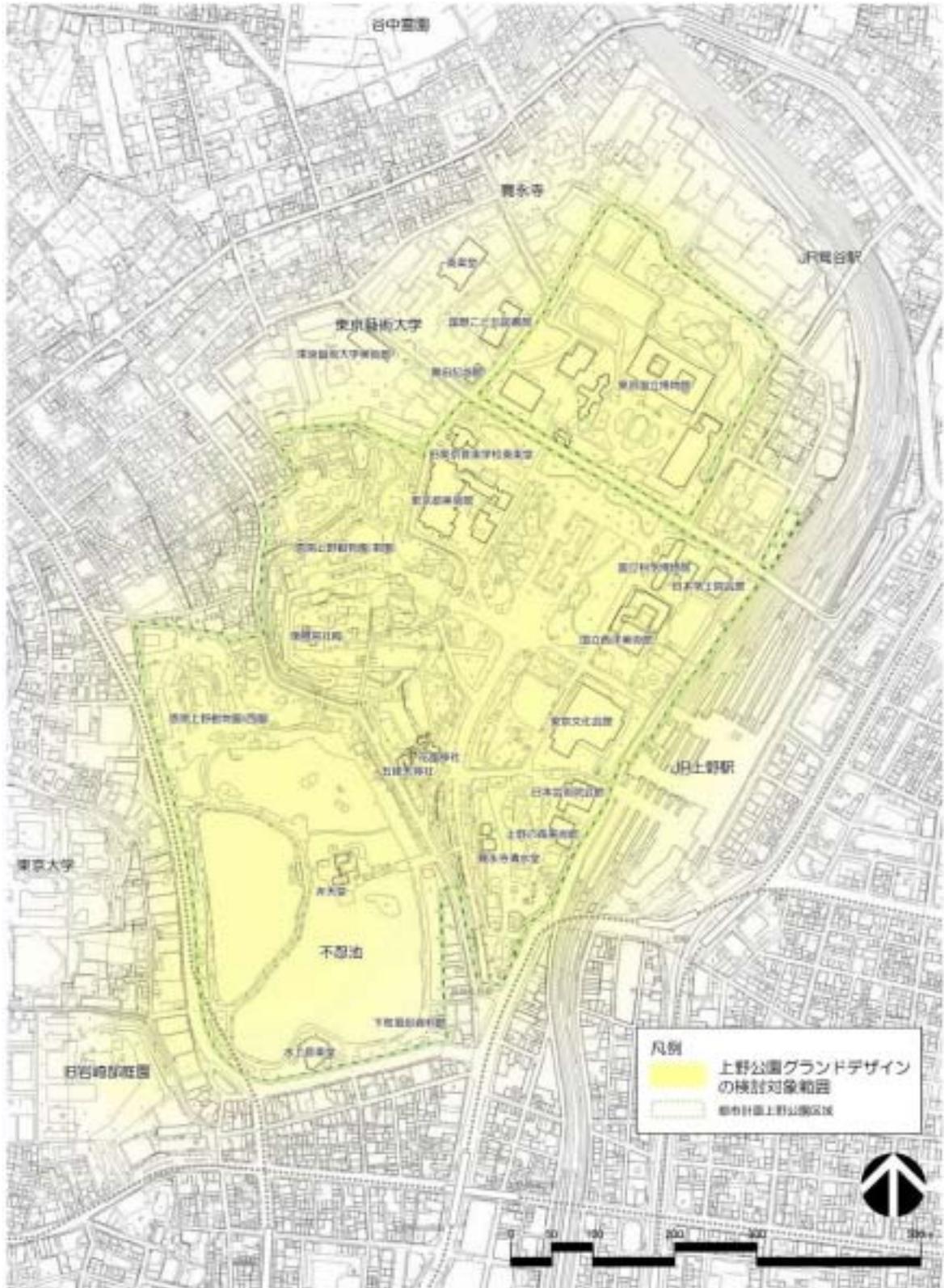
21 世紀は、大都市のあり方そのものが国の命運を左右し、地球の未来を決定する「都市の世紀」と言われている。東京は成長のステージを経て成熟を遂げようとしており、さらに機能的で魅力的な都市につくり変える先進的な取組により、21 世紀の新しい都市モデルを世界へ発信し、諸外国との交流や連携を深め、これにより、日本の再生だけでなく世界の平和と繁栄を築いていくことが期待されている。そこで、東京都は、平成 18 年度に「10 年後の東京」を策定し、2016 年のオリンピック開催を視野に入れ、東京の目指すべき姿と、それに向けた政策展開の方向性を示す都市戦略を明らかにした。その中で、上野公園は、芸術・文化、みどり、景観、観光等の面において重要な役割が期待され、文化の森としての再生が求められている。

2. 目的

上記の背景から、上野公園では、江戸、明治から受け継がれてきた独自の伝統や歴史・文化資源、みどりと水の魅力、さらには、我が国を代表する文化施設の集積という高いポテンシャルを活かし、世界に文化・芸術を発信する日本の顔として、国際的にも確固たる地位を築くことが求められている。上野公園グランドデザインは、上野公園の将来像を明確にするとともに、将来像を実現するための方向性と基本施策等を示すことを目的とする。また、上野公園に関わる全ての関係機関が、共通認識の下に、長期的な視点に立った事業の展開を図ることができる総合的な構想とする。

3. 検討の対象範囲

上野公園グランドデザインの検討対象範囲は、都市計画上野公園（谷中霊園を除く）を中心とし、寛永寺、東京藝術大学、旧岩崎邸庭園、JR上野駅等、周辺を含む地域についても検討対象とした。



上野公園グランドデザインの検討対象範囲

4. 検討の視点とねらい

上野公園グランドデザインでは、上野公園の現状や特性を整理し、上野公園の将来像やそれを実現するための施策の方向や可能性について検討を行った。検討に当たっては、歴史、自然環境、都市観光、首都東京の文化・芸術の発信拠点といった視点、さらには、上野公園を訪れる外国人や高齢者等多様な利用者の観点から、総合的にそのあり方について検討した。

上野公園グランドデザインは、これらの検討を踏まえ、長期的な視点に立って上野公園の将来像を示すとともに、概ね10年後を見据えた具体的取組の方向性を提言するものである。